




論文審査結果の要旨

論文提出者	中山 敬 介
論文審査委員	主 査 湯 浅 賢 治 
	副 査 大 関 悟 
	副 査 沢 禎 彦 
論文 題 目	「下顎枝矢状分割術に伴う知覚障害および下歯槽神経血管束の露出と下顎管の走行との関連性についての臨床的研究」 —CT画像を用いた下顎管の走行の解析—
<p>(論文審査結果の要旨)</p> <p>本論文は、顎変形症に対する下顎骨矢状分割術後の主要な合併症である下唇・オトガイ領域の知覚障害の原因である下歯槽神経損傷を引き起こす解剖学的な危険因子の解明を目的として行われた研究である。顎変形症患者 36 例 72 側の下顎枝の水平断 CT 画像を頬側皮質骨から下顎管との距離を 3 部位（下顎孔部、下顎角部、外側骨切り線相当部）において 4 項目の距離測定を行い、下歯槽神経障害群と下歯槽神経血管束露出群との下顎管の走行状態を統計学的に比較分析を行っている。その分析結果として、下歯槽神経障害群では下歯槽神経血管束の走行が直線的ではなく外側に凸の「く」の字形に屈曲していることを見いだした。下顎枝の厚さよりもこの屈曲が下歯槽神経損傷の危険因子であると結論づけている。本結果は臨床的、学術的にも価値の高い知見であり、下顎骨矢状分割術の合併症の軽減に大きく寄与するものである。よって、本論文は博士（歯学）論文に値するものであると結論した。</p>	